

## アメリカで育てる

永住や長期滞在の子どもたちの教育のために

INFOE (海外子女教育情報センター)  
松本輝彦

## 第9回

## コミュニティ・カレッジから4年制大学へ

## -- ヒロ君の挑戦 (1) --

アメリカに住む日本人の子どもたちが多様です。成績優秀で有名大学へ、という高校生ばかりではありません。思春期にちょっと寄り道したり、スポーツに情熱を注いだ高校生でも、ゼロから再スタートして大学を卒業できる。そんな、アメリカだから与えられる「セカンド・チャンス」を生かして、コミュニティ・カレッジ (Community College、以下「カレッジ」) から有名4年制大学への転進学 (transfer) に挑戦するヒロ君のお話です。

## 「ヒロ君」紹介

ヒロ君は、外国で駐在員のご家庭に生まれ、アメリカで育ちました。日本での生活は、一時帰国や体験入学で帰国した以外の経験はありません。

英語の方が得意ですが、ご家庭の方針で中学卒業まで補習校に通いました。現地校では、勉強は普通でしたが、高校卒業までスポーツを熱心に続けました。

私とヒロ君の付き合いは、もう6年くらい前、彼が中学生の時に日本語の勉強や現地校の勉強のサポートをしたのが、始まりです。それ以降、彼の成長する姿を見てきました。

## 相談：大学進学のコツは？

その彼が12年生の冬になって、「大学進学のことについて相談したい」とやってきました。アメリカの大学 (4年制) に出願したが入学許可が取れそうにもない、日本も含めて、他の大学の選択の可能性はないだろうか、ということでした。

現地校の成績・統一試験 (SATとTOEFL) などを見せてもらいましたが、私のこれまでの経験から判断して、帰国子女入試を受験して、日本の大学、それも有名校のどこかに入学することに問題はませんでした。

もうひとつのコツは、カレッジに入学して、2年後に4年制の大学に転進学 (transfer) することです。

## ヒロ君の悩み

残されたコトのどちらを選ぶのかは、難しい選択です。

大学進学についてのヒロ君の悩みは、実は、「大学卒業後の自分の人生の方向が決められない」ということが、彼の気持ちの根っ子にありました。

アメリカの大学に進学した場合、「アメリカの大学は勉強が大変。卒業できるだろうか？」「卒業後は、アメリカで就職し、生活するしかないのでは？」「アメリカ社会でうまくやっていけるのだろうか？」と悩みます。

一方、日本の大学に進学した場合の悩みは、「日本の大学は簡単だと言うけれど、本当に僕みたいな日本語力で卒業で

きるのだろうか？」「日本の大学生生活は楽しい、と聞いている。そんな生活に流されて、何も学ばないのでは？」「日本で生活したことがないので、大学在学中・卒業後と、日本でやっていけるのだろうか？」と続きます。

彼の悩みの言葉を聴いて、私の教え子達の例を、成功例だけではなく、うまくいなくて苦しんでいる例も含めて、伝えました。そして、最終的には「自分自身で決める」しかないことを強調しました。

## ヒロ君の夢と希望

何度も、彼の悩みや不安を聞く機会が続いた後、「ネガティブな話ばかりではなく、ポジティブに、ヒロ君の夢は何か話そうよ」と、話題の転換を提案しました。

さらに、何度も話したあと、「日本語と英語の力をもっと伸ばして、両方のカルチャーをしっかりと身につけて、将来の生活や仕事に生かしたい」「日本とアメリカを往来するようなビジネスに関わりたい」と明るい話が続きました。

これらのヒロ君の夢は、アメリカで生まれ育ち、日本語と英語を親に習得させられた (?) 子どもたちがよく話してくれるのと同じです。高校生達にその理由を聞くと「英語も日本語も苦労したから」「日本も、アメリカも好きだから」との答えが多く聞かれました。

## 大学で何を学ぶ？

大学生生活のイメージを明確に持つてもらうために、「大学で何を学ぶ」というテーマに移って行きました。

「自分の夢を実現するために、何が必要？大学で何をやるの？」「ビジネスって、具体的などんなこと？」と質問することにより、彼が漠然と抱いている大学での勉強のイメージをより具体化して、彼自身のコトを明確にするための手伝いです。

ビジネスと経済の違いなど、本当に多くのことを話し合ったり調べたりしました。さらに、日本の大学とコミュニティ・カレッジの仕組みや実情も話しました。